

## 「知的障害生徒とハワイ州高校生らとの環境問題をテーマにした学習」

京都府立城陽養護学校

〒610-0113 京都府城陽市中芦原1-4 URL : <http://www1.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s/>

## 実践事例報告の概要

知的障害のある養護学校生徒（15歳～18歳）が、ハワイ州の高等学校生徒と環境問題についての話し合いをする。コラボレーションとノーマライゼーションをテーマとして取り組む。メーリングリストを利用することにより日米教員、ボランティアなどが打ち合わせを円滑にすすめることができた。

実践の結果、生徒が異文化や環境に目を向けるようになった。また米国側教員からも高い評価を得た。

## 実践のねらい

## (1) 障害のない生徒との交流

本校生徒は、スポーツ（卓球・ソフトボール等）ボランティア活動、販売学習を通して地域の高等学校生徒と積極的に交流をしてきた。しかし、国外の障害のない生徒（高校生）との交流は言語の違いが壁となりこれまで取り組まれなかった。

ノーマライゼーションは世界的潮流である。この実践は本校生徒にとって国際理解にもつながるものであり、交流先である米国側高校生にとっても障害者を理解していく上で意義があると考えた。

## (2) コラボレーションをテーマとした学習

環境問題は日米共通の深刻な問題である。そこで共通のテキスト（日本語と英語で出版されたテキスト）を利用して、環境問題を学習する。地域の環境問題に目を向けたうえで、地域の環境問題を改善するために、生徒たちが日常の生活でどのようなことができるのか考え、提案していった。共同で思考することにより、新しい提案や考えをもつということを大事にした。

またネットワークなどを使って交流をすすめることにより、地球規模での環境悪化を認識できる機会とした。

## 特徴・工夫・努力した点

## (1) ボランティア人材を積極的に活用

海外の生徒や教員との接点がなかったので、交流先を見つけるためのボランティアを探した。また学校内の人的資源では限界があり、補えない仕事・役割（アイデア、通訳、交流先探し）を学校外の人材に求めた。米国ハワイ州は幾つかの島に分かれており、早い時期から、島間や本土生徒と

の交流にテレビ会議システムが導入され、現在でも学校教育現場での遠隔教育が熱心にすすめられている。また、ネットワークを使った教育活動をすすめるボランティア団体がある。そこで、米国側のテレクラスハワイ（ボランティア団体）と日本のJearn(<http://www.jearn.jp/> ボランティア団体) にお願ひし、その人的資源を積極的に活用した。

## (2) 共通教材を使い事前学習

日本の小学生の書いたコミック「地球の秘密」を日米の学生が環境問題を学習するテキストとした。このコミックは日本の英語教科書にも紹介されるなど、読みやすいテキストである。共通の教材を利用することで、環境問題について日米の学生が同じ土俵で話し合いがしやすくなったと考えた。

## (3) プレゼンテーション能力の向上

生徒らは、考えをまとめ発表することが苦手である。特に、テレビ会議では、カメラを通してリアルタイムに自分たちの考え・思いをうまく表現する必要がある。これは難しい課題である。限られた時間に数千キロメートル離れた生徒にこちらの考えを正確に伝えなければならないからである。そこで、日曜日や休日などにはボランティアとテレビ電話をつなぎ、プレゼンテーションの練習を繰り返した。プレゼンテーションのさまざまな工夫を生徒らが考え試行する。モニターに映るプレゼンテーションを見ているボランティアから、声の大きさ、間、使用する道具の色、人物の立つ位置などのチェックがリアルタイムに入った。このことは、生徒自らが考えを表現する技術を磨く経験となった。

## (4) インターネットツールの利用

## 1. メーリングリストの利用

実践を進めるためには、膨大は準備時間が必要である。特にテレビ会議はリアルタイムですすめ

る教育活動であるため、機器の不調など不測の事態も予想される。そのため、特にテレビ会議では準備に多くの時間をかける必要があった。そこで、実践に関わる担当者でメーリングリストを立ち上げ、準備をすすめた。メーリングリストには本校教員、日米ボランティア数名、米国側教員数名、ホノルル市教育委員会・米国側保護者の約10名で話し合いをすすめた。テレビ会議でのハワイ側高校生の会場への輸送費用、ホノルル市の多地点接続装置の貸し出しにかかわる日程調整などすべてこのメーリングリストで行った。またホノルル市教育委員会の方がメーリングリストのメンバーに入ることにより、教育委員会の情報機器の施設設備の貸し出しを受けるうえでたいへん配慮していただけた。

実践の事後もメーリングリストを使って反省会を行った。特にテレビ会議では、お互いの音声が入り交じったこと、会場の明るさの問題について反省が出されることが、2回目のテレビ会議に向けての反省材料としていかされた。

## 2. グループウェアの利用

生徒の交流手段としてNiceNetというグループウェアを利用した。このツールにより生徒はパスワードとユーザーネームで交流することができた。

このWebツール利用は、ハワイ大学教員の提案であった。生徒の交流手段として、自己紹介からはじまり、「地球の秘密」の感想などを話し合うことができた。

交流先に多くの日系アメリカ人が含まれており、日本語の学習をしている生徒が多く、日本語で書き込みを行う生徒もいた。

「もののけ姫」を見た米国人高校生に対して、本校生徒が映画「千と千尋」の紹介をしたところ、粗筋を教えてほしいという書き込みがあった。米国側では上映されておらず、たいへん興味をもったと言う。そこで、本校生徒が説明のための書き込みをした。このように特にアニメーションとテレビゲームソフトについては、共通の話題が多くみられた。

## (5) 総合的な学習を利用して異文化理解

ハワイ州は本校生徒たちのあこがれの地であり、旅行したい国であるということから、総合的な学習を利用して歴史・文化を学習する。

米国側生徒にとっても、日系の生徒が多く含まれていることもあって、日本への旅行を憧れている生徒が多かった。また、米国側学生のすべてが日本語を学習している生徒であった。

本校生徒による「フラダンス」についての質問

に対して、米国側生徒から実際にフラダンスを見せる約束をいただいた。そのため米国側高校生はフラダンスの練習に取り組み、テレビ会議の場で披露した。一方、本校生徒も日本で流行している「パラパラ」を実際に踊って紹介した。

## (6) 対面での交流

教員がホノルル市で交流した。

直接日米の教員が話し合いの場をもつ、研修、食事をするなどして、互いの性格、生活環境・職場環境を知ることはその後の実践を進めていくうえで参考になった。

本校生徒が作業学習で作成販売している作業製品（縫製製品）を米国側教員にプレゼントしたことも、本校生徒を理解してもらううえで役立った。

ホノルル市のハワイ大学の教室は、インターネットに常時接続されており、本校のWebページを紹介しながら本校の教育課程や生徒の様子を説明することができた。

ホノルル市教育委員会の情報機器（多地点接続装置）が不調の際には、ハワイ大学の設備を全面的にお借りすることができた。

## (7) プレゼンテーションの工夫

日米両国ともプレゼンテーションを工夫をした。本校生徒が「乗り物は自転車やバスを出来るだけ使おう シャンプーや歯磨きの時に水の出しっぱなしはやめよう 紙や金属やプラスチックのリサイクルに協力しよう 電気やガスは節約しよう ゴミを外に捨てるのはやめよう」の5点を提案した際、インターネットにつながったホワイトボード（電子黒板）を利用し、提案を絵や文字で描き電子メールで送信した（写真1）。

生徒は日本語で提案する。その日本語を通訳者が英語にする。スピーチの理解を助けるために絵と文字でホワイトボードに書き込み、書き込んだ

写真1



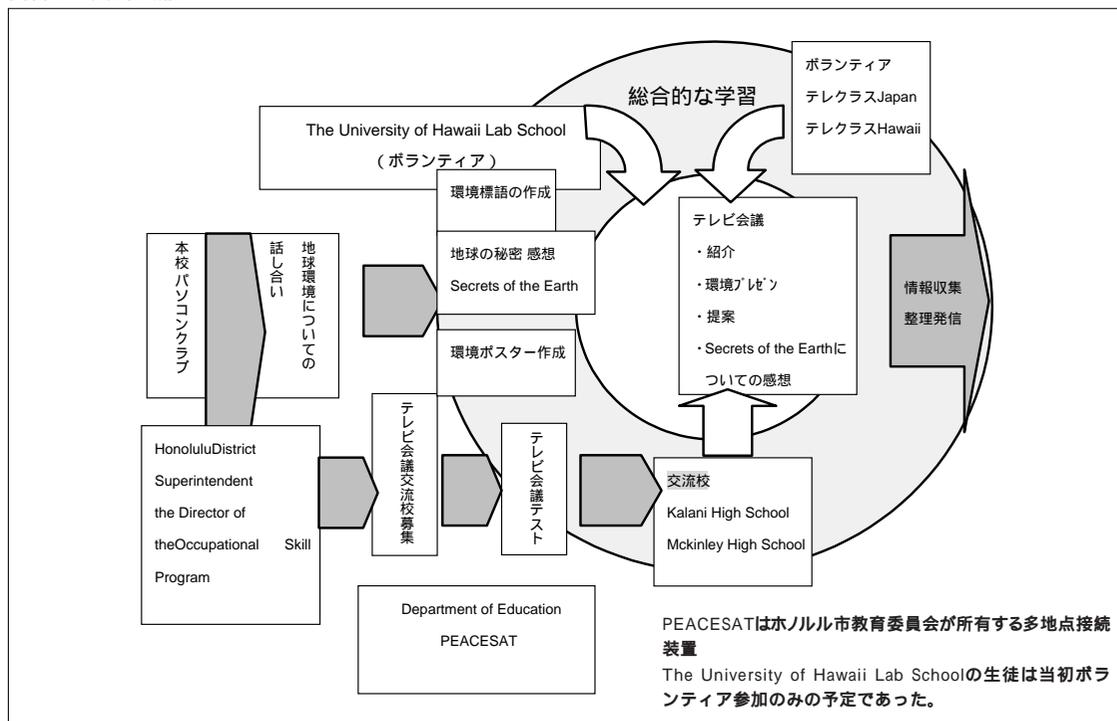
写真2



ものをホワイトボードに接続したコンピュータから電子メールを利用して米国側に送信する。

相手校生徒がプリント出力した紙の印刷物を見ることで、本校生徒のプレゼンテーションの理解を助けると考えた。

## 資料1・実践の流れ



米国側（写真2）は、実物投映機をテレビ電話機に接続し、投映機に入力した映像を日本側に送信しながら「ハワイ州での海洋汚染について」などのプレゼンテーションを行った。

## 実践内容

### (1) 共通教材の学習

米国側でも共通教材を選定していたが、日本側が提案したコミック「地球の秘密」が受け入れられた。「地球の秘密」の英語版を数冊郵送した。

本校生徒は、プレゼンテーション発表するパソコンクラブの生徒が中心となり学習した。米国側でも「地球の秘密」を同時期に学習した。感想はWeb上で発信した。

### (2) 情報収集と発信

#### 1. 日本人学校からの情報収集

スイスの日本人学校保護者から得たスイスのゴミ処理の情報をもとに、日本のゴミ問題を改善する方法を話し合う。スイスのようにゴミ処理を有料化すればよいのかどうかを話し合った。「1. 電気製品等の有料の引き取り」「2. 燃えるゴミの処理有料化（ゴミ袋の有料化）」についてまとめ、ゴミ処理有料化がゴミ量を減らすために役立つかどうかを話し合った。話し合いでは賛成反対派に別れたが、その考えをWeb上で情報発信した。

### 2. Web情報の収集と加工

世界のゴミ問題について情報を収集するために、総務庁のエクセル資料をダウンロード。資料を加工してゴミ問題と資源のリサイクルが関係していることを知る。その資料を使いポスターを制作し、Web情報として発信した。このWeb上でダウンロードしたポスターは米国側でも印刷出力した。

### 3. 標語による表現と発信

学習して学んだことを標語としてまとめ、その標語については、Webページを作成したうえで公開することとした。

### (3) プレゼンテーション

テレビ会議でプレゼンテーションを行った。内容としては以下の3点である。

- 1 自己紹介とゴミ処理有料化について
- 2 米国側生徒によるハワイ州での環境問題
- 3 環境改善にむけた提案

自己紹介は、本校生徒は英語で、米国側生徒は日本語で行った。

### (4) 実践の流れ（資料1）

生徒の活動 地球環境の話し合いをパソコンクラブを中心に行う 「地球の秘密」を学習 「ポスター」「標語」「感想文」を作成 Webページ作成、ナイスネットを使った交流 テレビ会議によるプレゼンテーション

教員の活動 生徒が考えた計画をもとに交流の

全体計画を英文で作成 テレクラスハワイから  
ホノルル市教育長に交流校探しを依頼、交流校3  
校が決定する メーリングリストを立ち上げ登  
録後、打ち合わせを行う ホノルル市での教員  
の現地交流

## 実践結果

(1) さまざまな情報伝達ツールを利用

さまざまな情報伝達手段利用して話し合いをす  
めることができた。

時刻合わせに時差からお互いのローカルタイム  
で実践をすすめようとしたところ、米国側教員か  
らGT(グリニッジタイム)を使うべきという意見  
がでた。ローカルタイムからGTを知るためのWeb  
ページの紹介もあり使用することになった。

また、本校生徒が作成したポスターをPDFファ  
イルとしてハワイに送ったところ、英語のみ使用  
しているコンピュータで日本語文字が読み取れな  
かった。そこで米国側コンピュータでPDFファイル  
(日本語混じり)を読み取るためのソフトのダ  
ウンロードサイトを調べ、米国側に報告した。米  
国側コンピュータでダウンロードと解凍、インス  
トールに成功することで、日本語文字の表示が可  
能となった。このように、協力しながら情報伝達  
ツールの利用をすることができた。

(2) 障害のない生徒との交流

ノーマライゼーションの世界的潮流にのり、米  
国教員と共同プロジェクトをすすめることがで  
きた。このプロジェクトは、米国側教員にも大きな  
感動を与えた。このプロジェクトは今後も引き続  
き継続していきたいという要望があり、引き続き  
発展させるために計画中である。

(3) ボランティアの活用

テレビ会議は、クラブ活動の時間にボランティ  
アの方の自宅にテレビ電話を接続することで、プ  
レゼンテーションのしかたにさまざまなアドバイ  
スをいただくことができた。実践をすすめていく  
うえで、日本側からもハワイ側からも通訳ボラン  
ティアが参加するなど、多くボランティアの応援  
のもとに学習活動をすすめることができた。

(4) さまざまな感動体験

今回、生徒たちは次のような感想をもった。

- ・他国の年代の生徒と話し合いができたことが  
よかった。
- ・環境問題について関心がもてるようになった。
- ・他国の文化について関心をもてるようになった。
- ・ボランティアの方に感謝の気持ちがもてるよう  
になった。

になった。

## 考察(今後の課題)

(1) 英語によるコミュニケーション能力の向上が  
必要

教員が交流に使用した電子メールはすべて英語  
を使用した。米国人の英語表現が難しい時があり、  
電子メールなどで寄せられた質問や提案に対して  
すぐに返事できないという課題が残った。また、  
テレビ会議などの通訳が校内の人材で補うことが  
できないなど英語科教員のコミュニケーション能  
力に課題を感じた。

(2) 予算の問題

テレビ会議に利用した教育委員会の施設利用料  
と米国人教員が生徒を引率する際の交通費(タク  
シー利用料)を誰が負担するのかがメーリングリ  
ストで話し合われた。日本が負担すべきという意  
見もあった。結果、米国内の学校予算で賄えるも  
のではなく、米国人ボランティアが負担した。日  
本の学校と米国の学校を単純に接続するのならこ  
のような問題はおこらないが、有料の施設利用と  
交通手段による移動という問題などがある場合、  
予算問題を考えていく必要がある。

(3) 計画的な実践の必要性

ホノルル市での現地交流では、

- 1 お互いの生徒が学習した内容をWeb上で共同発  
信しよう。
- 2 お互いの国の首長にWebページの連絡・宣伝を  
しよう。

という話し合いをしたが結果としてできなかった。

3月のテレビ会議の後、日本側が学年末に入っ  
てしまったからである。今後米国側教員と協力し  
て、共同プロジェクトのゴールをはっきりとさせ  
計画的にすすめる必要がある。

京都府立城陽養護学校は病弱養護学校だが、高等部におい  
ては知的障害生徒を受け入れている。

## 参考Webページ

Nice Net【<http://www.nicenet.org/>】

Jearn【<http://www.jearn.jp/>】

Web翻訳サービス

【<http://www.logovista.co.jp/trans/index.html>】

掲示板【[https://www2.jearn/.jp/fs/50/bbs/  
customboard.cgi?page=20](https://www2.jearn/.jp/fs/50/bbs/customboard.cgi?page=20)】

生徒作成Webページ【[http://www.kyoto-  
be.ne.jp/jyouyou-s/sansei/j/framepage3.htm](http://www.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s/sansei/j/framepage3.htm)】